



吹田市議会議員

か み や ソ ウ ヘ イ

神 谷 宗 幣



吹田新選会が交渉会派に！

私は当選以来約1年の間、1人会派で活動してきました。1人というのは自分の思い一つで活動ができますが、その分大きな動きは起こせませんし、議会内の制約もありました。そこで、7月1日より無所属の石川勝議員と会派を組み、吹田新選会は議会の運営に意見を出せる交渉会派となりました。私も石川議員も同じ1期目の議員で、経験こそありませんが、どの議員にも負けない熱い気持ちを持っています。変革の時代、若い二人の思いを合わせ、吹田市政に新しい風を送り込んで参ります！



市民まちかど相談所

こんなお悩みございませんか？

市政に関わる要望、相談

子育てや教育のお悩み

多重債務や金銭、法律のトラブル

補助金申請

男女間トラブル、離婚

開催日：毎週月～金

午前10～12時

午後13～15時

場所：千里山行政書士事務所

電話：06-6385-1230

FAX：06-6385-1239

*相談は全て無料です。
*事前に要予約。



9月議会での代表質問

教育条例の必要性を訴える！！

【意見】 青少年育成に関する条例は大切なもの。行政の縦割りの壁を越えた総合的な人材活用の下、じっくりと時間をかけ、実効性のある条例を作ってもらいたい。私は、家庭の教育の大切さを訴え、家庭教育のあり方を提起することと、公立学校の権限をしっかりと明記した条例が必要と考える。今日の学校には権限がなさ過ぎる。学校で少しでも厳しい指導をすると、親からのクレームがあり、そういった時に教育現場で拠り所となる指針がなければ、現場の先生方は何をバックに自分の信念を貫けばよいのか。いうことを聞かない児童生徒を指導するにしても、体罰の定義すらない状態では、たとえ児童のためを思っていることであっても、児童生徒の嫌がることをしたりさせたりすればそれらは全て体罰となる。子供の人権云々もいき過ぎれば、子供の学ぶ機会を奪うことに繋がる。大人がしっかりと「ならぬものはならぬ」と教え、我慢することを覚えさせなければ、子供の忍耐力など育つはずがない。ニート、引きこもり、若年自殺者の増加、ネットカフェ難民、といった社会問題の根底は皆共通していると考えます。市として目指す人づくりの方向性をしっかりと定め、教育現場の人間が自信を持って自分の職責を果たせる条例の制定が必要である。

神谷 宗幣（かみや ソウヘイ）： 昭和52年 福井県大飯郡高浜町生まれ
福井県立若狭高等学校卒。関西大学在学中に1年間海外をまわり、自分を含めた今の日本の若者はこれでいいのか、と疑問を抱く。大学卒業後、高校教師の経験を経て関西大学法科大学院へ進学し、平成19年3月卒業後、4月の地方統一選挙で吹田市議会議員に初当選。

「変えよう！若者の意識」をキャッチフレーズに、吹田市の教育の充実を目指し活動中！



みなさまの声を代弁します。

市政への要望・不満、行政への質問など、何でもお気軽にどうぞー

自 宅：〒565-0821 吹田市山田東4-41 5-814号 電話・FAX 06-6567-8750

事務所：〒564-0041 吹田市泉町1-3-40 市役所3F 電話 06-6337-6928（直通）

H P：http://www.kamiyasohei.jp MAIL：info@kamiyasohei.jp

9月議会での代表質問の一部要旨（神谷）

家庭の教育力の向上を！

【質問】 行政が家庭の教育に口出しすべきではないとの意見もあるが、ここ数十年の急速な核家族化や都市化による影響で、子供とその子の親以外の大人との関わりが薄れている今日の日本社会においては、自分の親がしっかりとした家族運営をできない場合、その子供は家族のあり方や家庭教育の仕方など全く学ぶ機会もないまま、自分が親になってしまうマイナスの螺旋構造が出来上がっている。学校教育の基礎となる家庭教育の充実に向けて、市としても「教育の基本は家庭にあり」と大きな旗を掲げ、「家族の強化」と「家庭の教育力の向上」を目指すべきではないか。市長の所見を聞きたい。

【市長答弁】 家庭で子どもを育むことは、すべての教育の原点であり、基礎となるものであると考えている。本来、家庭での子育てや教育の基本は、保護者がそれぞれ自覚を持ち責任を果たすべきものであるが、その根幹が揺らいでいる昨今の状況は、非常に憂慮している。今後、一層きめ細かく幅広い次世代育成支援を進め、親子がゆとりをもって向き合える家庭、家族が慈しみ合い、笑顔で暮らせる家庭、さらには、近隣の家庭が互いに支え合い、励まし合える地域をめざし、行政に求められる役割を最大限果たしていきたい。

【質問】 子育ての財政的補助を与え、家庭での子育てをサポートするといった形で、女性の子育て方法の選択肢を増やすべきだと考える。3歳未満の子供を預けて働く女性の就労機会の意識調査などは市として行ったことがあるのか。また、国際的にも子供の学力が高いといわれるノルウェーやフィンランドでは、在宅の児童手当などで3歳までの子育てを支援する施策によって、保育所利用率は低く、その反面出生率が高くなっているといわれている。本市においても、上記のような在宅子育て支援の政策の検討はなされているのか。

【答弁】 平成14年度に保育・子育てに関する市民アンケート調査を無作為抽出調査により実施したが、働く女性の就労機会についての設問はない。議員ご指摘の働く女性の就労機会についての調査については、今後の研究課題と考えている。また今後、総合的な子育て支援施策を展開していく中で、新たなサービスの提供について研究していきたいと考えている。

【要望】 過去の保育料の支払い状況を調べていくと未納者が年々増えている。平成10年では年間約86万円程度であった未納額が13年には約730万円、16年には約1500万円となって、昨年19年にはなんと約2700万円となり、過去10年で累積1億5000万円を越えている。このような未納額の増加は、保育園運営の健全化を脅かす大きな問題になると危惧する。このままでは、真面目に支払う方が馬鹿を見るような形になってしまう。こうした保育料の未納問題は担当部局だけに任せずに、他部局とも連携して回収に当たる方法を検討してもらいたい。

【質問】 学習指導要領の改訂にもともなって授業時間数が増え、時間数の確保が必要となってくる。そこで今度夏休みを短縮して授業を行うことを想定するのであれば、それと同時に学校の校舎にエアコンを設置することも検討すべきではないか。教育委員会としては、エアコンの設置などは検討しているか。また、設置するとした場合の1教室あたりの設置費用と市全体の設置費用の概算は。

【答弁】 設置費用の概算では、1教室当り約250万円、小・中学校の普通教室全体では約22億円と見込まれる。設置については、現在の財政状況から勘案すると、大変困難であると考えている。ご指摘の点も踏まえ今後、関係部局と協議のうえ研究していきたい。

市長の考える「こども育成条例」とは？

【質問】 現在市長の提案に基づき児童部を中心に「こども育成条例(仮称)」なるものの制定が準備されているとの事。条例策定の現在の状況と今後の構想と合わせて聞きたい。

【答弁】 この条例は、「子どもの権利条約」をもとに、子どもの健やかな育ちを支援することを目的としており、先月に関係部局にこの条例の策定の周知を図ったところ。今後、今年度中は関係部局の職員で構成する庁内検討委員会の中で条例の概要を確定し、平成21年度から22年度にかけて市民公募委員を含めた専門検討委員会で検討していく。

【要望】 「子どもの権利条約」をもとにしたと言いながら、その条約の趣旨を歪曲・拡張し、子供の権利ばかりを誇張して制定されたおかしい条例が全国に幾つかある。それら条例の中には、子供の「ありのままの自分での権利」というようなものまで書かれている。子供が「ありのままの自分での権利」として認められるのであれば、もはや教育や躾は成り立たなくなる。子供の権利などをたくさん明記し、その権利侵害の定義を明確なものとしていなければ、条例ができたばかりに、親や教師として当然の指導を行ったものが、「権利侵害」の烙印を押されることとなり、家庭や学校は無秩序化してしまう。同じ「子どもの権利条約」をもとにしたといっても、様々な現場の混乱を生む条例も現実存在するので、くれぐれも注意して条例策定に努めてもらいたい。

議会報告

個人質問の概要(石川)

全市一斉の防災訓練はまちづくりの基本 今後の更なる充実を！

【質問】 初めて開催された訓練。肝心なのはこれからだ。いち早く今回の訓練を分析して、今後の取り組みを全市民へ示せ。その為には、先ず現場の声を大至急拾い上げることは欠かせないと思う。今後、どのようにして今回の現場の声を拾い上げるのか計画を示せ。また、鉄は熱い内に打て。今回の訓練に参加した人が次回訓練に今回の気づきを活かす為には、できる限り早い時期に2回目の訓練が必要だと考える。更に充実した内容にしようと思えば準備にもかなりの時間を要すると考える。今後の計画を早期に示せ。

【答弁】 出前講座や地域訓練などを通じ、現場の声を積極的に拾い上げる。今回の教訓を十分に踏まえ、防災関係機関の連携・市民参加の訓練・図上訓練など、様々な方法を加味しながら市と地域の連携のあり方も検討しながら計画していく。

教育委員会は、先ず市民からの 信頼を確保すべきだ！

【質問】 今後、教育委員会の重要度は増すと考える。今、教育委員会がやらなければならないことは吹田市民からの信頼の確保だ。本市の教育委員会がいかに優れているのかを示し、劣っている点はどこにあるのか、そして最も大事な将来ビジョンを具体的に示す必要がある。見解を求める。

【答弁】 これまで以上に幅広い見地から多様な意向を反映できるよう委員の定数を1人増員し教育委員会が所管する事務等の点検・評価等を解りやすい形で提示し、開かれた教育委員会の推進に努める。

未来を拓く教育の創造が求められており、「わが都市吹田の教育ビジョン検討会議」を発足し教育ビジョンの策定に向け本年度中には素案作成を考えている。

JOBカフェ吹田・JOBナビ吹田！ 市内企業との連携を強めるべきだ！

【質問】 JOBカフェ・JOBナビが一体となって運営する吹田独自のこのシステムは、就職支援のみならず市内企業への大きなサポートにもなる。あっせん業務にあたり企業と打ち合わせをする中で浮かび上がってくる企業が求める行政サービスを把握し、企業のサポートとなるような提案や相談を行うことにより、企業の吹田市内定着率を上げる効果もある。計画はどうなっているのか？

【答弁】 本市が独自に市内事業所を対象に求人開拓を行い求職者とマッチングを行う。他市にない手法として、委託業者と本市職員が同行し、求人開拓並びに次の施策へのヒントともなる事業所が抱える問題点や要望等の情報収集を行い、若者・高齢者・障害者雇用の拡大に向けての提案も考えていく。企業協議会との連携・研究も更に進め企業定着率の向上に努める。

本市独自の教育政策 今後も期待する！

【質問】 委員会の会議を公開したり、優秀な先生をサポートしたり、情熱があり、やる気のある先生に対し吹田市独自に報酬を出したり、地域の方々を教育現場に招いたり、親の教育を推進したりするなど本市独自の策を充実させるべきだ。見解を求める。

【答弁】 学校教育改革プランを示し本市独自の策を展開している。地域の方々を招くエスネットプランや大学と連携したスクールボランティアなど地域に根ざした取組を行っている。また、国語力向上プロジェクトや本市独自で学力実態調査などを実施し、他をリードする施策により大きな教育効果を生みだしてきた。やる気と情熱のある教職員の発表・交流の場でもある「吹田市教育研究大会」なども他に類を見ない実践だ。今後も独自策を検討し続け「地域に根ざした質の高い公教育の創造」に向け取り組む。

江坂は特区として扱うべきだ！

【質問】 全国的に最高レベルで発展した地域だからこそ、江坂ならではのまちづくりにこだわるべきだ。これまでに提案している、マナーを重用視するまちづくり特区を初め、出店店舗規制特区、地域貢献企業集積特区、若者育成企業特区、起業家育成特区、その他全国に無い特徴を前面に押し出す政策を！見解を求める。

【答弁】 個性的で魅力有る専門店の集積、起業支援、情報サービスなど産業支援企業誘致・育成、にぎわい・文化交流施設の誘致・若者の交流・快適で安心安全な環境などが必要であり、特区制度の活用等も視野に入れて江坂エリアの特色を十分いかしたまちづくりを進める。



挑戦する勇氣・守るやさしさ・創る情熱

吹田市議会議員

いしかわ まさる

石川 勝

9月議会での個人質問

江坂の衰退は本市全体の衰退に繋がる!

企業撤退の状況を把握し、早期に対策を打つべきだ!

【質問】 江坂地域は本市の税収で大きなウエイトを占めると予測できる。企業撤退の状況についてどのようにして把握しているのか?現状を示せ。危機感を持って対策をしなければ手遅れになる。見解を求める。

【答弁】 企業撤退の理由については企業訪問や商工会議所等を通じて把握に努めており大変憂慮している。家賃が梅田地区とあまり変わらないことや、企業ニーズに合った物件が少ない等が考えられる。商工振興施策検討部会で「企業の定着促進についての施策」を検討していく。「クリーンな江坂のまちの魅力」と隣接して「千里ニュータウン」という優れた環境の住宅地」等を江坂のブランドとして前面に押し出して企業の定着を図ることが涵養であるとの意見もある。

連絡先

吹田市垂水町1-31-22

石川まさる事務所

TEL : 06-6337-7701

FAX : 06-6337-7702

mail : ishikawa@wish.ocn.ne.jp



活動報告はブログで。http://blog.livedoor.jp/ishikawa_masaru/

未来を切り拓く為に、進むべき道を創る。

7月1日より吹田新選会の構成員となり会報誌初登場の石川 勝です。

政治の素人であった私に貴重な1票を投じてくださった皆様の期待に応えるために私自身がまずやらねばならない事は、いち早くプロの政治家として行動できるようになる事。

そこで私は当選以降どの政党にも属さず無所属で活動を進め、既成概念にとらわれない自由な活動を推進する中で、あらゆる角度から生の政治と関わってきました。この間、吹田では自由民主党吹田市議団を窓口として議会全般の情報を共有させて頂き、又政策等を共に協議し市への要望などを上げて参りました。国の政権与党ならではの情報力や実現力も目の当たりにし大いに勉強させて頂きました。また、全国の若手議員達と共に勉強会をしたり視察へ出掛けたりと、とにかく四六時中政治の事を考えて参りました。

今年は、テレビ番組で政治を背景とするドラマ「CHENGGE」が放映されました。このドラマは多くの場面でリアルに真実が表現されており、全国に散らばる腐敗した政治家にとっては複雑な心境だった事でしょう。今、国全体が大きく変革すべき時期にきているのです。国のために、そして故郷の為に自己犠牲をはらってでも責務を果たしていく真にプロの政治家による新しい政治が誕生する時期に来ているのです。

こうした時代に現場で行動する私には、吹田の未来を切り拓く責任があるのです。

今後は神谷宗幣議員と共に、これまで以上自らの厳しい挑戦課題を課し確実な成果を上げることにより、まずは吹田政治への不信感を払拭し、大きな希望のもてる新しい政治を創造して参りますので吹田新選会に大いに注目して欲しいです。期待して欲しいです。

政治家を目指してくれる若者が1人でも多く生まれることを期待しつつ、現役の責務を果たすことをお誓いし、初登場のご挨拶とさせていただきます。